

東海道五十三次

藤沢 ふじさわ

江戸より六番目の宿

時宗総本山の遊行寺をなほしめ、江の島鎌倉参詣の人々にぎわうに藤沢宿。小栗判官、足手廻し、源義経伝説、南湖の左衛門頼朝の死の原因になつたとされる相模川橋見とかが多い。



広重の絵の中で、手前にあるのは江の島弁天への鳥居、境川にかかる遊行寺橋の向こうに宿場の軒が連なり、その奥の小山に遊行寺が見える。現在は鳥居はなく、建物にひさまされてかすかにみえる。遊行寺のある丘は絵だけ

高くはないが広重の誇張だろうか。遊行寺橋はいまは赤く塗られてる。



東海道
五拾三宿
藤沢
廣重画

藤沢宿は時宗総本山

遊行寺清浄光寺の門前町として、また江の島鎌倉詣での参道として栄えた宿場である。いまこの付近は藤沢駅前繁華街をなすけれど、少々さびしい場所となってるが、遊行寺の存在感のせいか、かえって落ち着いた場所に感じられる。身にぼろもまとって、南無阿彌陀仏と唱えながら津々浦々をめぐった一遍上人の寺らしく、枯淡ではあるが威厳のある寺である。

遊行寺

日本觀光百選の一つに数えられている時宗の総本山。正しくは藤沢山無量光院清浄光寺。時宗は鎌倉時代に「踊り念仏」で知られる一遍上人にはまて開かれた宗派で、その四代目の吞海上人にまて正中二年(一三三五)に建立された。

「名物うまいもの」
松露、ようかん
湘南の松の松露を練りこんだようかん。
嘉永三年(一八〇九)創業の和菓子屋豊島屋

